

iPadの弱点

巷（ちまた）ではiPad（アイパッド）の話題が沸騰している。



i P a d



iPad活用本

多数の関連本が出たり、発売日に行列ができるのは、新製品などに良くありがちな光景だが、なぜ日本には対抗製品が出ないのだ。また世界から取り残されるのかと言った論調も聞こえてくる。

テレビやパソコン、携帯電話など、日本が得意としていた分野で、次々に世界的な販売不振となっているので、さすがにどうしたのかと声を上げたいのだろう。

それでも部品には日本製が使われていると言いたかったのであろう、iPadを分解してみせてくれるTV番組まで放送される。

それによると、デザイン（色調）は中身にまで及んで（こだわって）いる。特別な部品は無いなどと分析してくれるが、結局日本製の部品はほとんど使われていないということで落ち着く。

そうすると、iPadは新技術などではなく、既存の技術（部品）の組合せの妙にあったということになる。

もちろん、iPhone（アイフォーン）の成功が先にあり、そこでは専用ソフトの開発TOOLを無料で提供するとか、要望に合わせてこまめに機能を修正するなど、消費者参加型の機器としたことは、ビジネスプランでの成功と言えよう。



iPhone



iPhone用ソフトウェアの開発

そして、iPadではiPhoneの機能に加えて、電子ブック（e-book）の機能を売りにしている。先に売り出された「キンドル」（KINDLE）と競争するかのよう、時代は書籍の電子化だと騒がしい。

しかし、ここ（電子ブックリーダーとしての使い方）がiPadの弱点であると指摘したい。

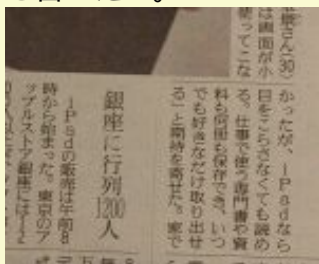


iPod vs. キンドル

とても、今のままでは本など読めない。

端的に言えば、iPadで本を読めば、目が疲れる。
それは長時間読めば（使えば）読む（使う）ほどに弊害として顕在化するだろう。

iPad発売日の購入者へのアンケートでは、「本が読みやすい」という人がいるが、わかっていないと言いたい。



2010.05.28読売新聞夕刊記事の一部

実は私は、バックライト型液晶ディスプレイには一種のアレルギーのような状態になっている。
光るディスプレイ上の文字に目を凝らすだけで頭痛がしてくる。

アレルギーの代表である花粉症の原因は、免疫がどうの、食事や体質がどうのと言われるが、要するに多量の花粉がなければ生じなかつたはずだ。

それは、最初に花粉症になったのは自然児である猿だったことから明らかだ。
長年健康に暮らしていた猿の里に、後から植林という事業の結果として多量の花粉が到来したのだ。

私の目は、パソコンのディスプレイ光を多量に浴びたのだ。

それも近眼であったことで、画面に顔を近づけていたことが影響を増幅させた。

最初はワープロの蛍光表示であった。画面上で考えながら文字を打つということで、相当に長時間、光るディスプレイを凝視したのだ。翌日目が腫れていたこともあった。

時代はワープロからノートパソコンに移り、さらに小型のパソコン（バックライト）を凝視した。

このころから、目が異様に疲れ、いつもショボショボし、眉の辺りを指で押すと激痛を感ずるまでになった。

こうなると、小さくても大きくても、光っている画面で字を読む気にはならない。

今でこそ相当に回復したが、光るディスプレイを使わなければならないときは、文字を極端に大きくして画面との距離を置くか、黄色のサングラスをつけて光線の影響を弱める対策を採る。

光るディスプレイの使用は、たとえば、蛍光灯のランプを直接、長時間見つめるようなものだ。

普通の人なら耐えられないと思う。

しかし、バックライト式液晶ディスプレイからの光は、それ（蛍光灯）と同様の原理であり、使う者は表示内容を見ることに集中しているので、蛍光灯を見つめているとは気付かないだけなのだ。

バックライト画面の使用後には、眼がヒリヒリしてこそ正常だと思う。

ドライアイなどは、単なる症状であって、疲れ眼の原因ではないと思う。

いくら目薬をしても原因を断たなければ意味は無いはずだ。

なぜ、そう断言できるかといえ、一時期発売されていた、反射型ディスプレイを搭載したノー

トパソコンを使用するに至って、目の疲れが全く無い（取れた）ことに気付いたからだ。

反射型ディスプレイを使用すると、パソコンの画面でありながら、本を読んでいる感覚と同様なのだ。



反射液晶を使用したノートパソコン（NEC Versa Pro NX PC-

VA50HTRTYDAA）

本を一冊読んだ後に、眼がヒリヒリする感覚を持つ者は少ないだろう。
なぜなら、目（視神経）への負担が少ないからだ。
せいぜい、近くにピントを合わせ続けるために、毛様体が疲れる程度だろう。
本で目がヒリヒリするために読書アレルギーになった話など聞いたことも無い。

当然、反射型液晶画面のパソコンでは、VDT症候群など起こり得ない。
目への負担は本を読み、ノートを取ることと変わらないのだから。

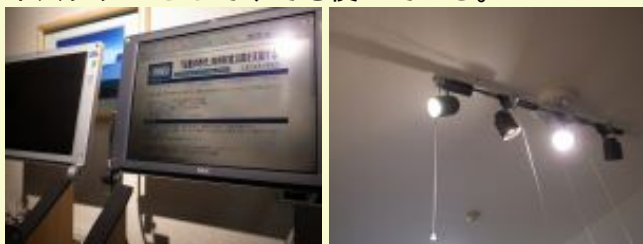
ただし反射型ディスプレイを使うには、十分な光量（外光、照明）が必要だ。
本を読むときには十分な光（読書灯）を用意する、ということを理解できる人でも、
パソコンを使うときに十分な光（照明灯）を用意しようとする者はいないと言って良いだろう。

それがために（だと思う）、反射型のディスプレイを採用したパソコンは市場から消えてしまった。

反射型表示のパソコンが後継されてないのは残念である。

Versa Proを長らく使っていたが、CPUが陳腐化して遅く感じるようになり、処理速度の面で使うに耐えなくなった。

それで窮余の策で、ノートパソコンからディスプレイだけ外して、回路を加えることで、外付けディスプレイとして今でも使っている。



反射型液晶表示装置（ディスプレイ）をノート

パソコンから取り外して製作した、汎用外付け反射型ディスプレイと、天井照明

人は、発光する本を読む歴史が浅い。
ちょっと見ただけで、明るい表示は見やすいと勘違いしているのだ。
（動画や、絵本など小さな文字が無い場合は明るいのも良いだろう。）

反射型の表示装置は、目に良いだけではない。
消費電力が少なく、薄型に出来、軽量にもなるのだ。
良いことはわかっているのだが、開発できていないのが現状だと思う。
その意味で、表示装置の開発は、まだまだ完成型（理想型）への距離があるということだ。

ぜひとも日本のメーカーから、万人が納得する反射率を持った反射型（半透過でも良い）カラーディスプレイ（[カラー電子ペーパー](#)）を出してほしいものだ。

そのときこそ、電子的知的財産の再生装置である電子ブックの時代だと心から思うだろう。

2010.06.03

IPHONE は、米アップル インコーポレイテッドの登録商標第5125678号

i Phone は、アイホン株式会社の登録商標第5147866号
iPad は、米アップル インコーポレイテッドの商標出願2010-18927号
KINDLE (キンドル) は、米アマゾン テクノロジーズ インコーポレイテッドの登録商標第
5136794号です。

[メール](#)

All Rights Reserved, Copyright © Yazawa Kiyoshi 2010

[閉じる](#)